スイフト

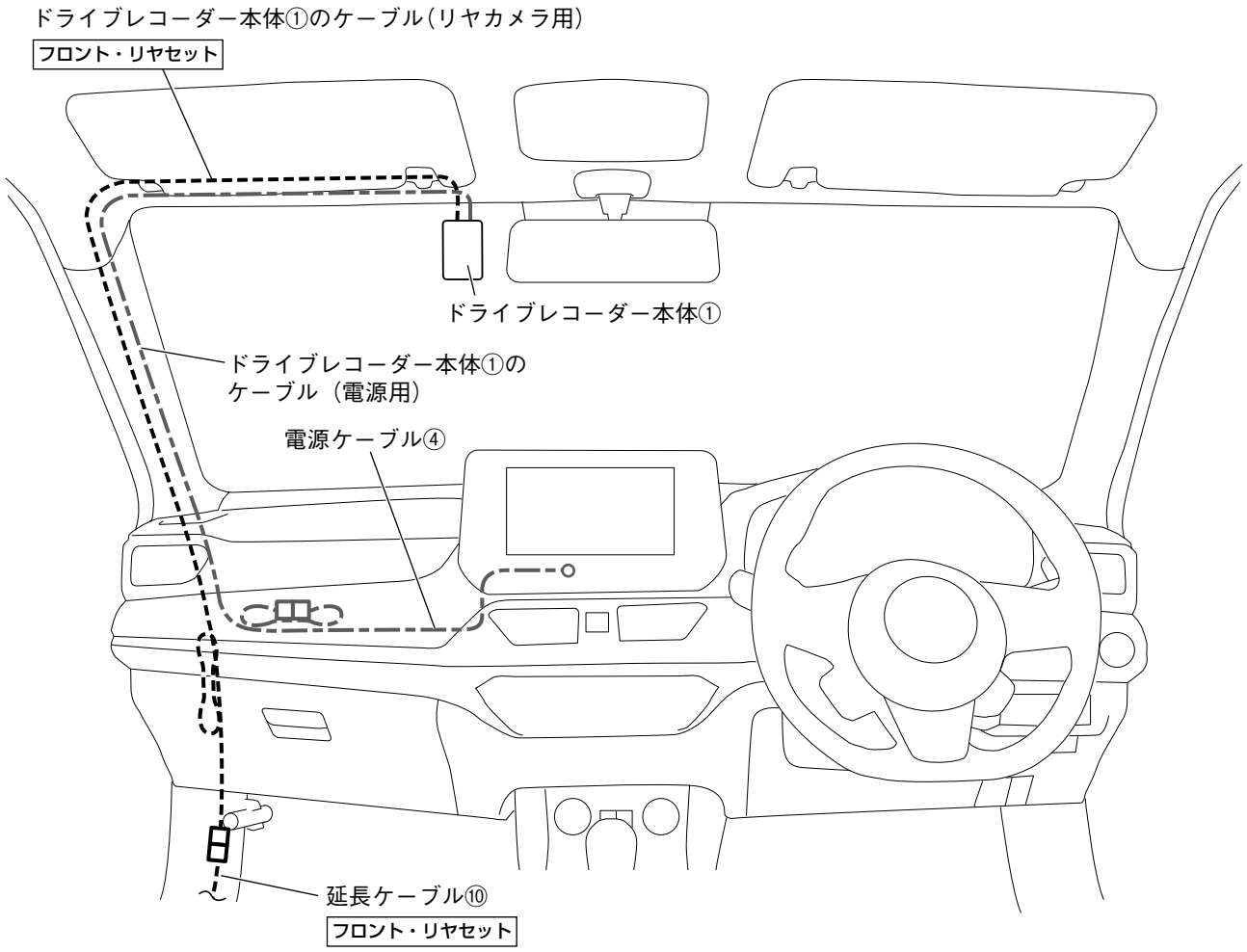
車種別取付要領

共通編の「共通取付要領」も合わせて参照ください。

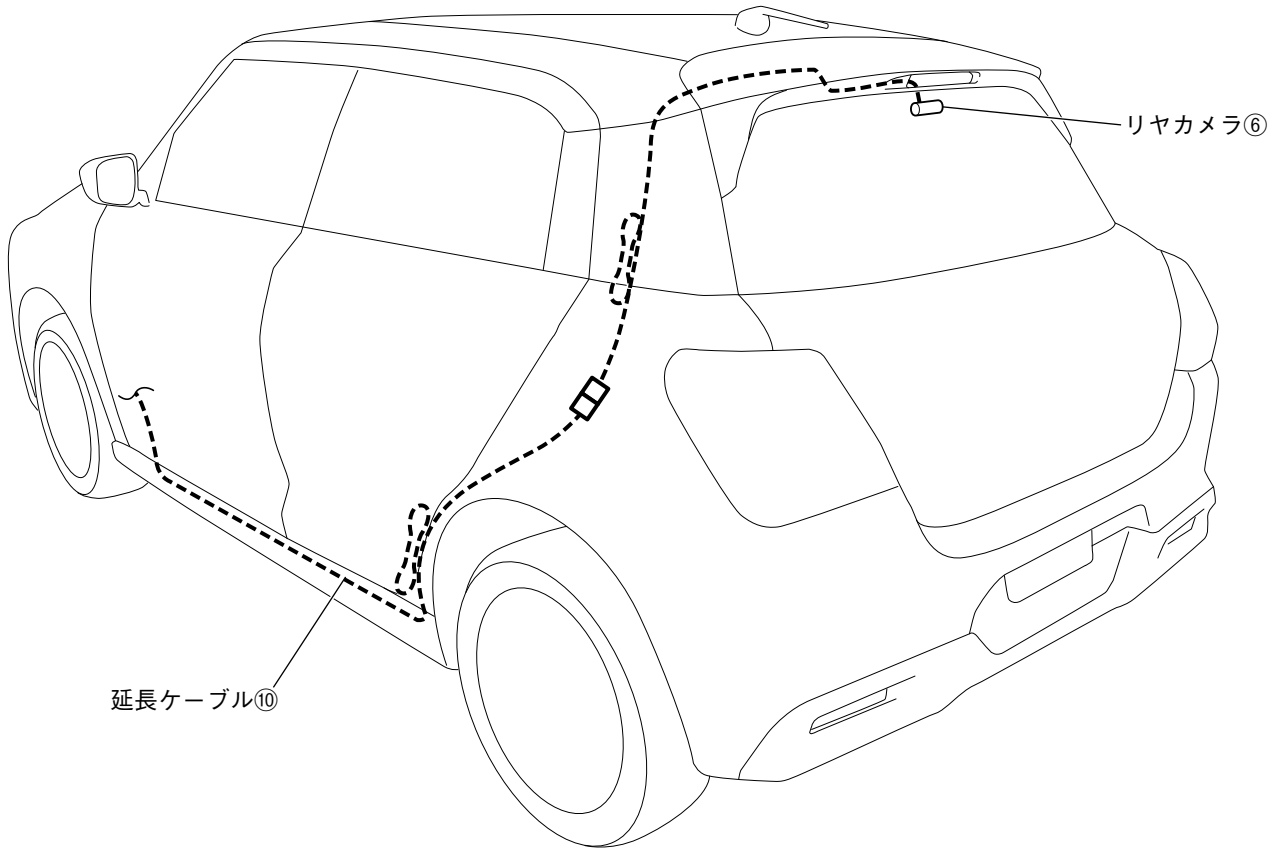
アドバイス

本説明書は「フロント・リヤセット」、「フロントのみ」の２つの製品の取付方法について記載しています。タイトルや本文に記載しているコメントを参考にして、それぞれの製品の取り付けを行ってください。なお、「フロント・リヤセット」、「フロントのみ」の記載がない項目についてはいずれの仕様も対象です。

■ 取付概要図



フロント・リヤセット

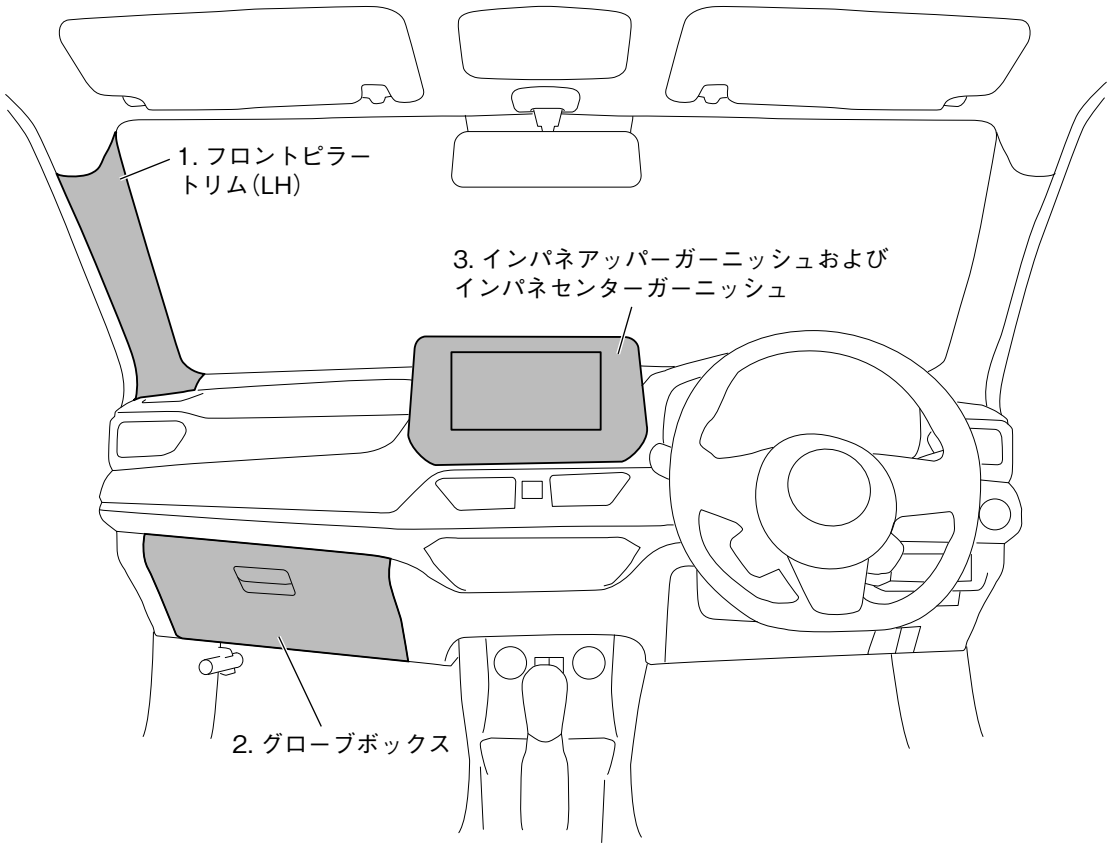


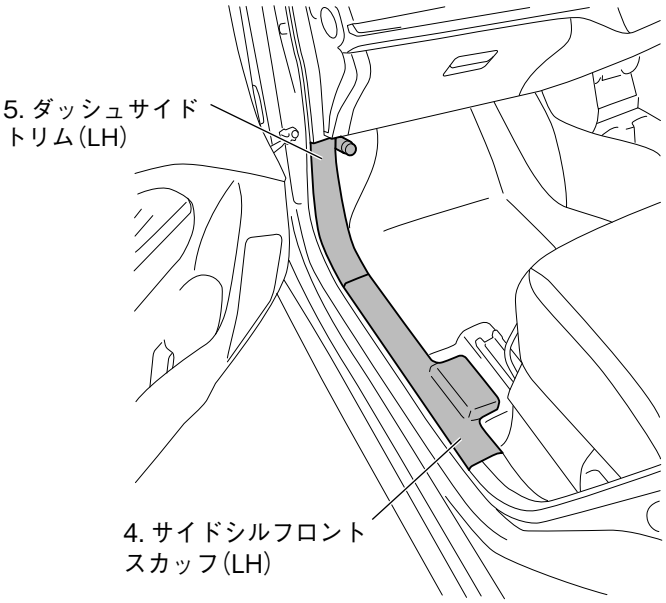
■ 車両部品の取り外し

図中の番号順に車両部品を取り外します。

注 記

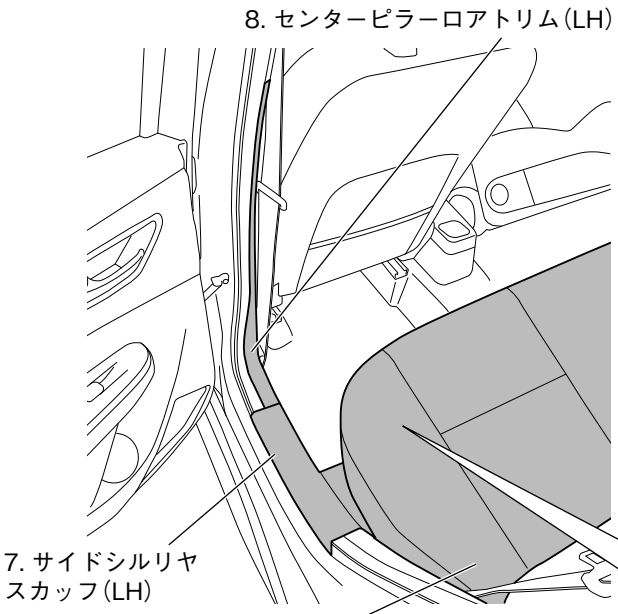
内装部品を傷付けないよう、養生テープなどで保護をしてから部品を取り外してください。





アドバイス

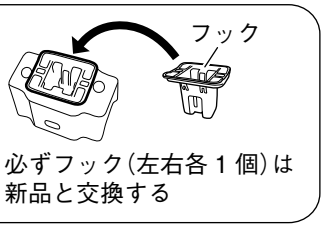
「フロント・リヤセット」装着時は、以下の車両部品も取り外してください。



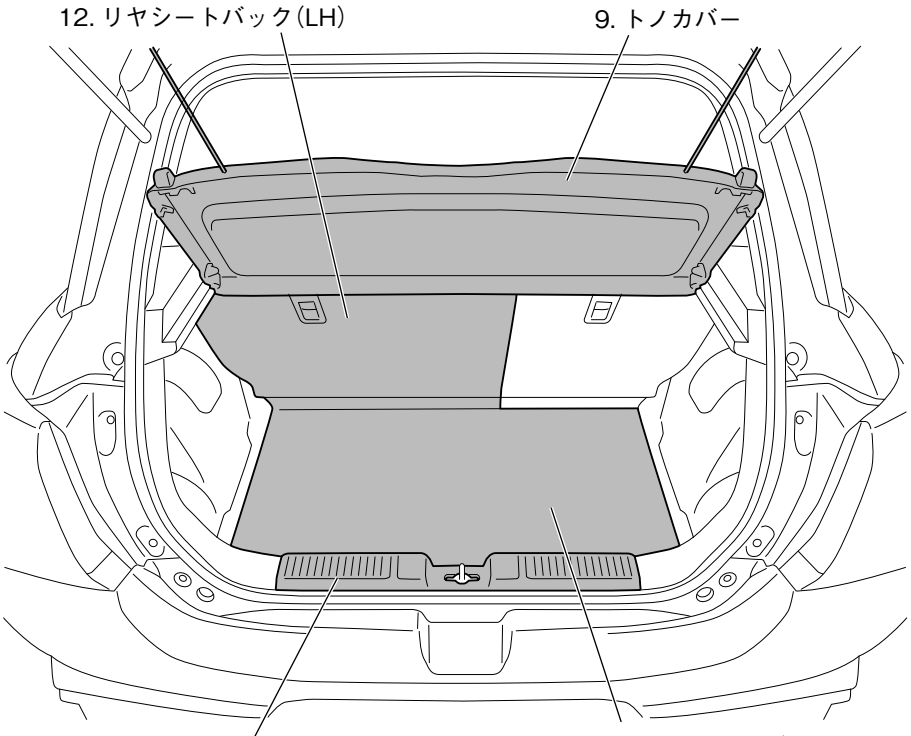
※リヤシートクッションを取り外した場合は、
リヤシートクッションを固定している
フック(左右各 1 個)を車体から取り外し、
別売の新品部品に交換してください。

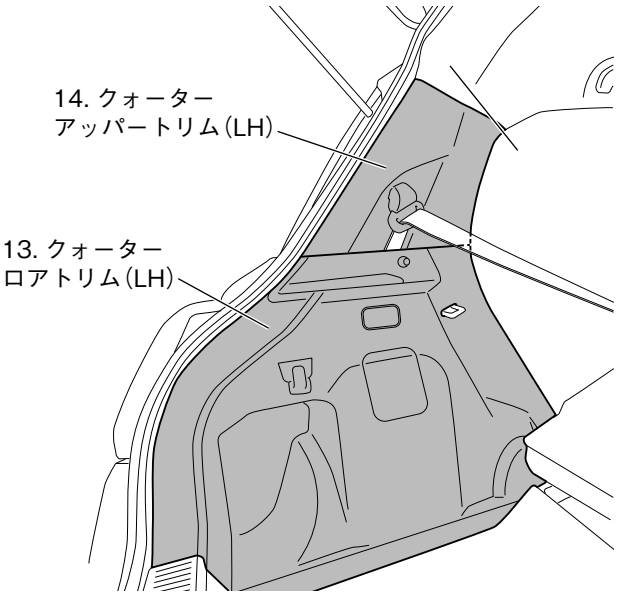
⚠警告

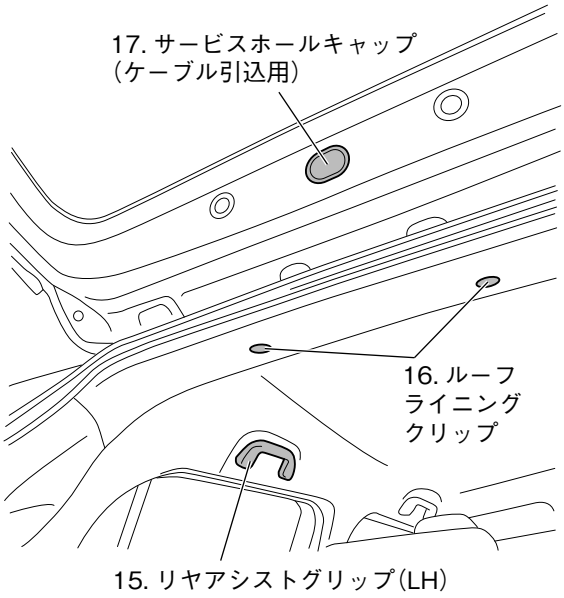
フックは再使用できません。必ず別売の新品部品と交換してください。
新品部品に交換しないとリヤシートクッションが確実に固定されない可能性があり、シートが正常に機能せず重大な損害を負うおそれがあります。
なお、車両部品の取り外し / 取り付けは、必ず車両のサービスマニュアルを参照して行ってください。



必ずフック(左右各 1 個)は
新品と交換する




14. クォーター
アッパートリム(LH)
13. クォーター
ロアトリム(LH)

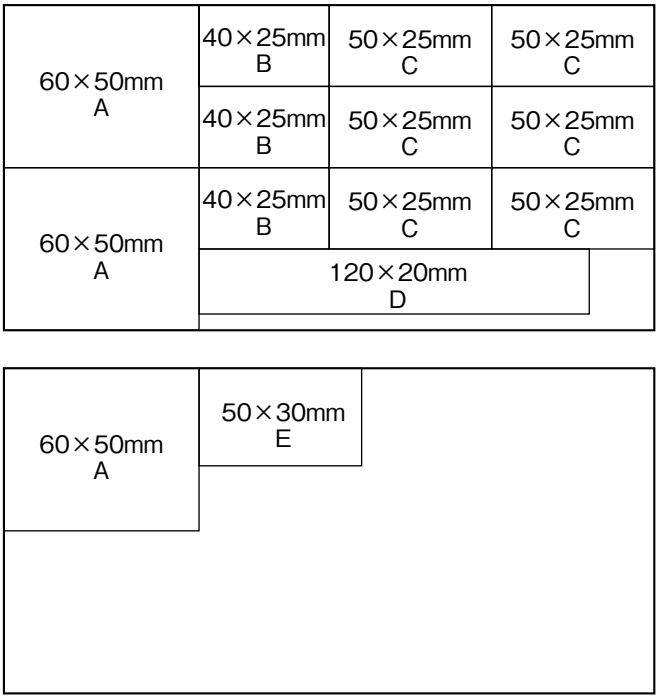

17. サービスホールキャップ
(ケーブル引込用)
16. ルーフ
ライニング
クリップ
15. リヤアシストグリップ(LH)

■ 取付前の準備

クッションテープの準備

●フロント・リヤセットの場合

クッションテープ(200×100mm)⑫

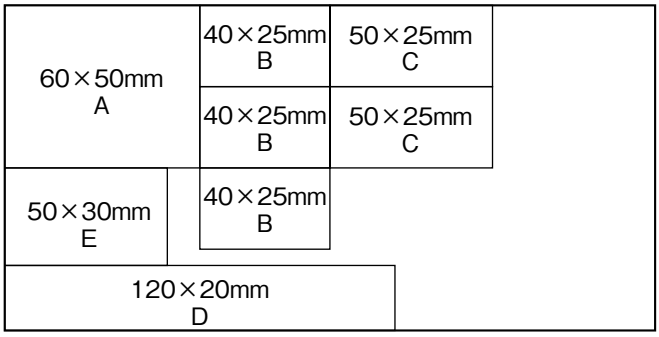


クッションテープ⑫を左図のようにカットします。

A：コネクター接続部巻き付け用
B：ドライブレコーダー本体①のケーブル巻き付け用
C：ケーブル固定用
D：余長束ね用
E：アースコード固定用

●フロントのみの場合

クッションテープ(200×100mm)⑫

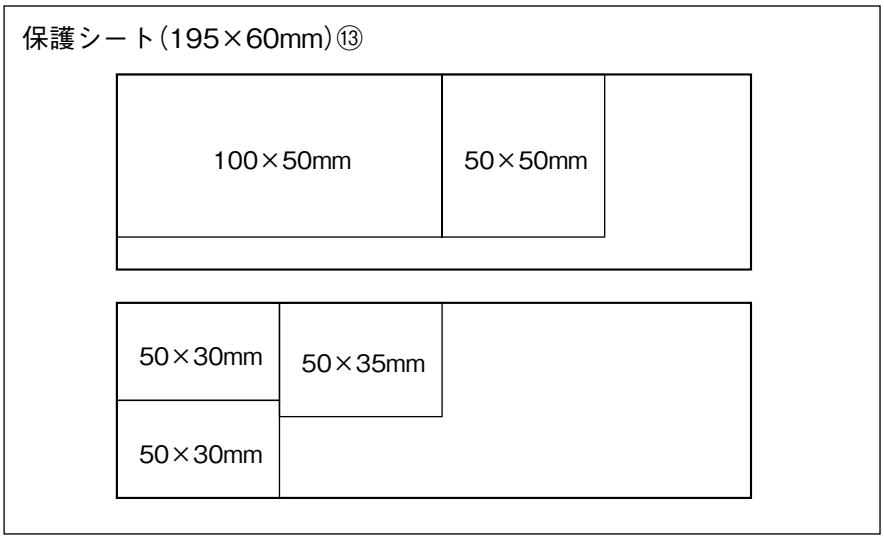


クッションテープ⑫を左図のようにカットします。

A：コネクター接続部巻き付け用
B：ドライブレコーダー本体①のケーブル巻き付け用
C：ケーブル固定用
D：余長束ね用
E：アースコード固定用

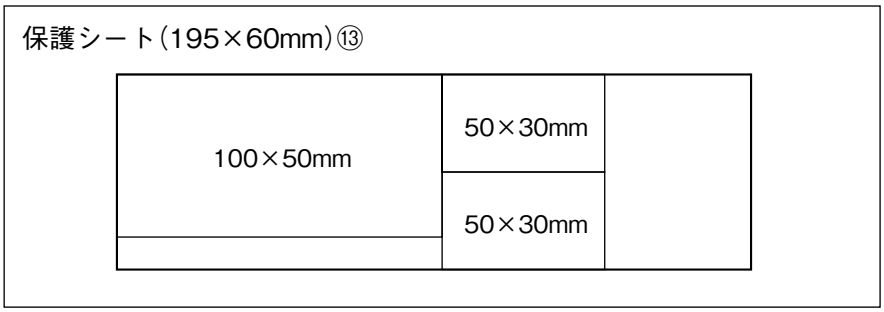
保護シートの準備

●フロント・リヤセットの場合



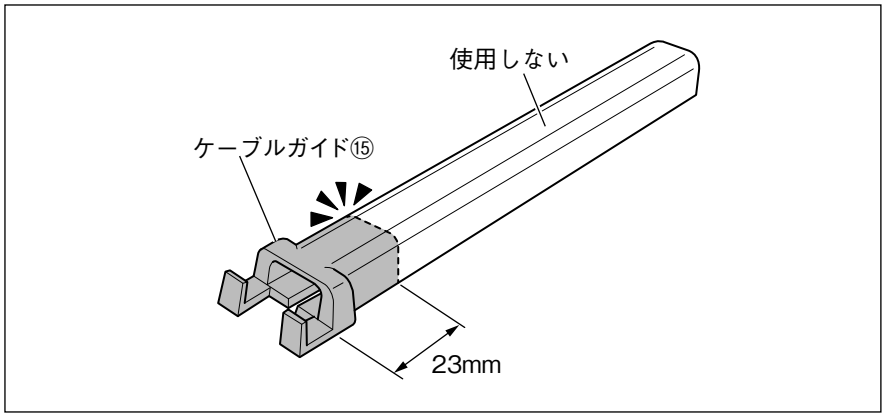
保護シート⑬を左図のようにカットします。

●フロントのみの場合



保護シート⑬を左図のようにカットします。

ケーブルガイドの加工

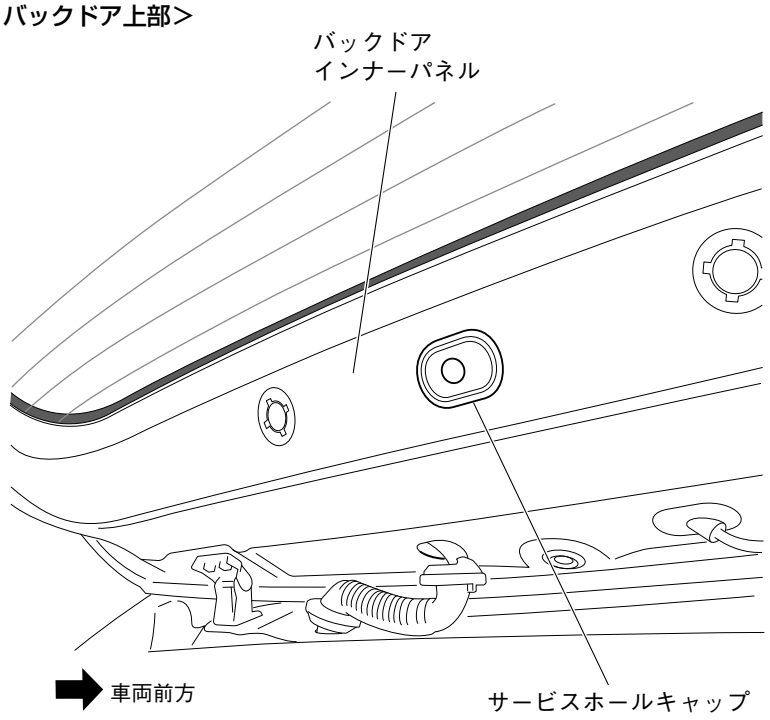


ケーブルガイド⑮を左図のようにカットします。

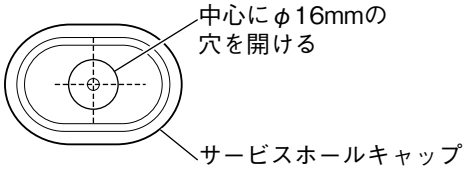
⚠注意
カット加工時は、耐切創手袋を着用してください。

サービスホールキャップの穴開け加工　フロント・リヤセット

<バックドア上部>



<サービスホールキャップ穴開け>



1. バックドアから取り外した車両サービスホールキャップの中央に穴（φ16mm）を開けます。

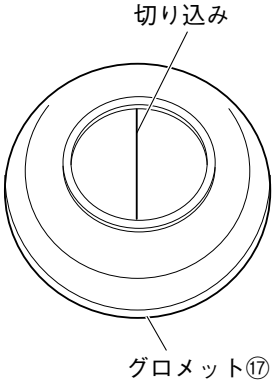
⚠警告
穴開けの際は切削粉が飛散するため、必ず保護メガネを着用してください。

⚠注意
電動ドリル使用時は、巻き込み防止のため手袋を着用しないでください。

注 記
- ホールソーの刃先端部から10mm以内の位置にストッパー（布テープ等）を巻いてください。
- ホールソーは穴開け面に対して垂直に当ててください。

2. 穴開け加工部をヤスリでバリ取り処理します。

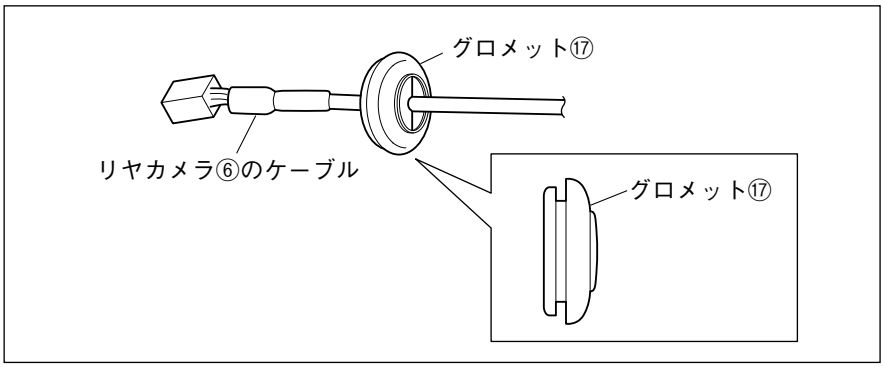
グロメットの加工　フロント・リヤセット



グロメット⑰に切り込み加工します。

⚠注意
切り込み加工時は、耐切創手袋を着用してください。

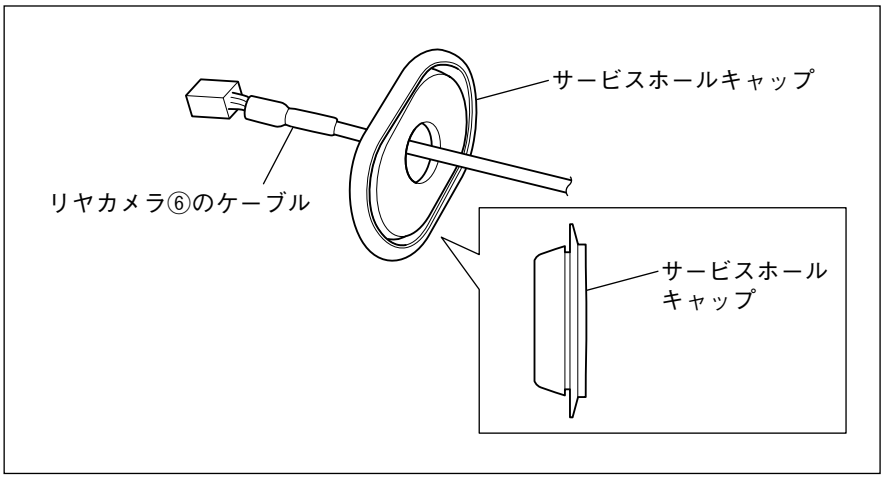
リヤカメラのケーブルの準備　フロント・リヤセット



1. グロメット⑰にリヤカメラ⑥のケーブルを通します。

注 記

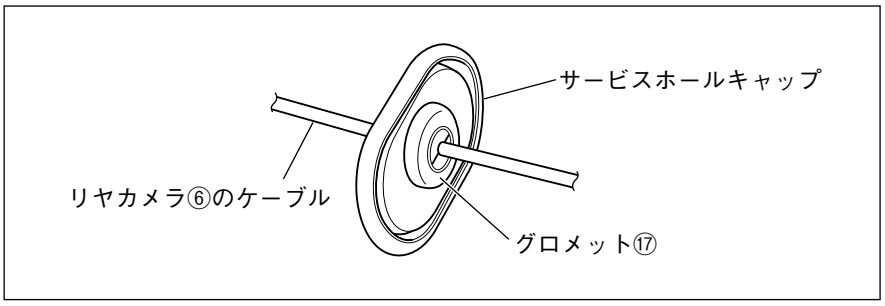
・グロメット⑰は、図の向きで取り付けてください。
・リヤカメラ⑥のケーブルをグロメット⑰内に通す際は、破損防止のため無理に引っ張ったりしないでください。



2. リヤカメラ⑥のケーブルをサービスホールキャップの加工穴に通します。

注 記

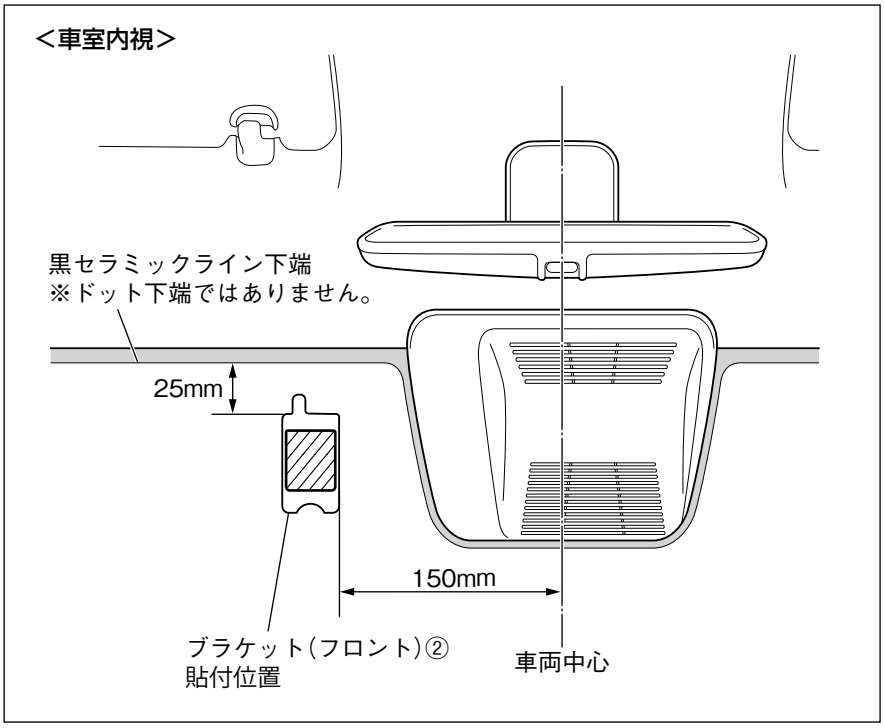
サービスホールキャップは図の向きで取り付けてください。



3. グロメット⑰をサービスホールキャップの加工穴に取り付けます。

■ ドライブレコーダー本体およびリヤカメラ貼付作業

ドライブレコーダー本体の貼り付けおよび角度調整



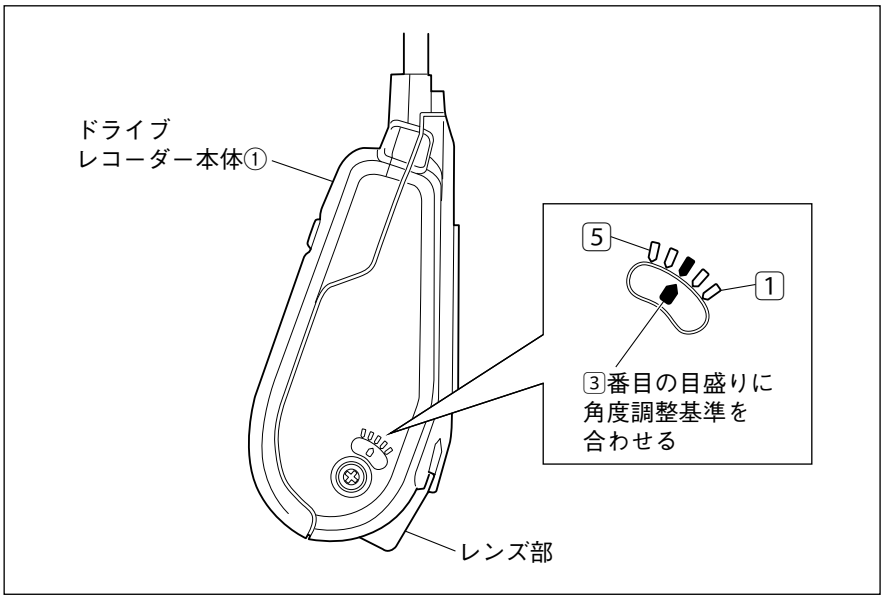
1. ブラケット（フロント）②をフロントガラス内側の左図位置に取り付けます。

注 記

- 取付面の汚れ等をクリーナー⑭できれいに拭き取ってください。汚れていると接着力が低下します。
- 接着面に触れたり、ブラケットを取り付け直したりしないでください。
- 気温が低い時（15℃以下）は、取付面をドライヤーなどで温めてから取付作業を行ってください。

アドバイス

ドライブレコーダー本体①、ブラケット（フロント）②の取り付けの詳細は、共通編の「ドライブレコーダー本体の貼り付けおよび角度調整」を参照してください。



2. ドライブレコーダー本体①のレンズ部の角度を左図位置に固定します。

注 記

- **カメラレンズ部の汚れや傷付き防止のため、カメラレンズ部を絶対に触らないでください。**
- **しっかりと固定され、がたつき等が無いことを確認してください。**

アドバイス

ドライブレコーダー本体①レンズ部の角度調整方法の詳細は、共通編の「ドライブレコーダー本体の貼り付けおよび角度調整」を参照してください。

3. カットしたケーブルガイド⑮をドライブレコーダー本体①に取り付けます。

アドバイス

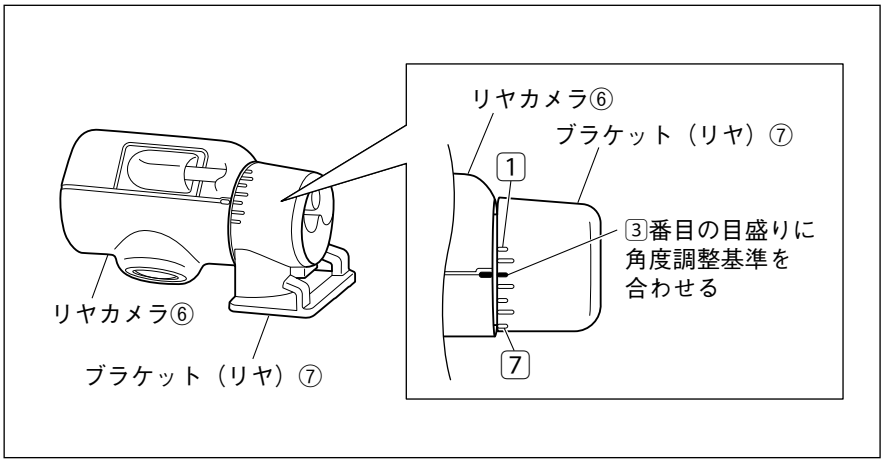
ケーブルガイド⑮の取り付けの詳細は、共通編の「ドライブレコーダー本体の貼り付けおよび角度調整」を参照してください。

4. ケーブルガイド⑮先端をルーフライニング内に挿し込みながら、ドライブレコーダー本体①をブラケット（フロント）②に取り付けます。
5. ドライブレコーダー本体①をネジ（M3 × 5.5mm）③で固定します。

アドバイス

ドライブレコーダー本体①のネジ固定の詳細は、共通編の「ドライブレコーダー本体の貼り付けおよび角度調整」を参照してください。

リヤカメラの角度調整および貼り付け　フロント・リヤセット



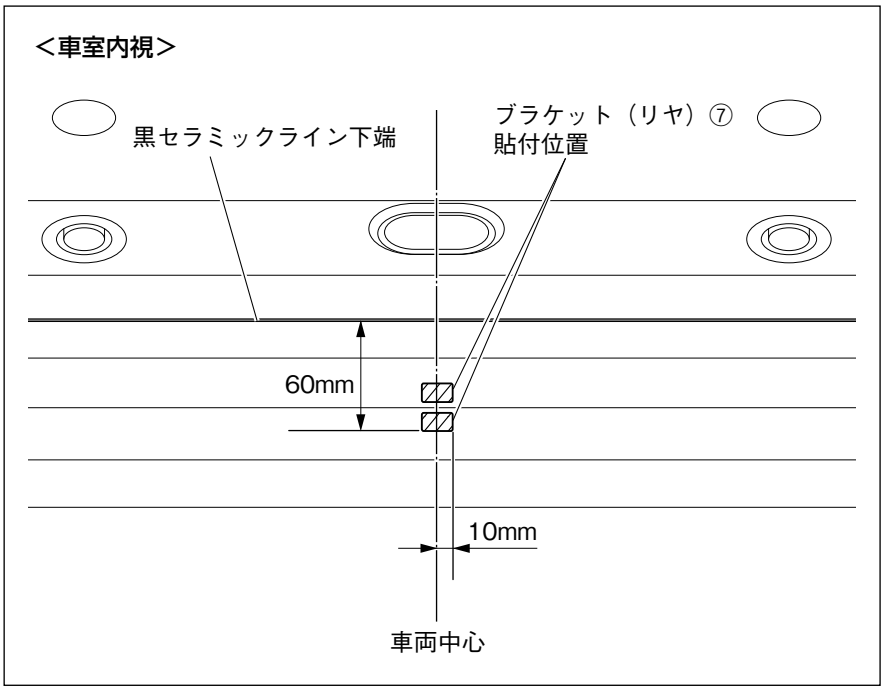
1. ブラケット（リヤ）⑦をリヤカメラ⑥に組み付け、左図位置に固定します。

注 記

- カメラレンズ部の汚れや傷付き防止のため、カメラレンズ部を絶対に触らないでください。
- しっかりと固定され、がたつき等が無いことを確認してください。

アドバイス

ブラケット（リヤ）⑦の角度調整の詳細は、共通編の「リヤカメラの角度調整および貼り付け」を参照してください。



2. ブラケット（リヤ）⑦をバックドアガラス内側の左図位置に取り付けます。

注 記

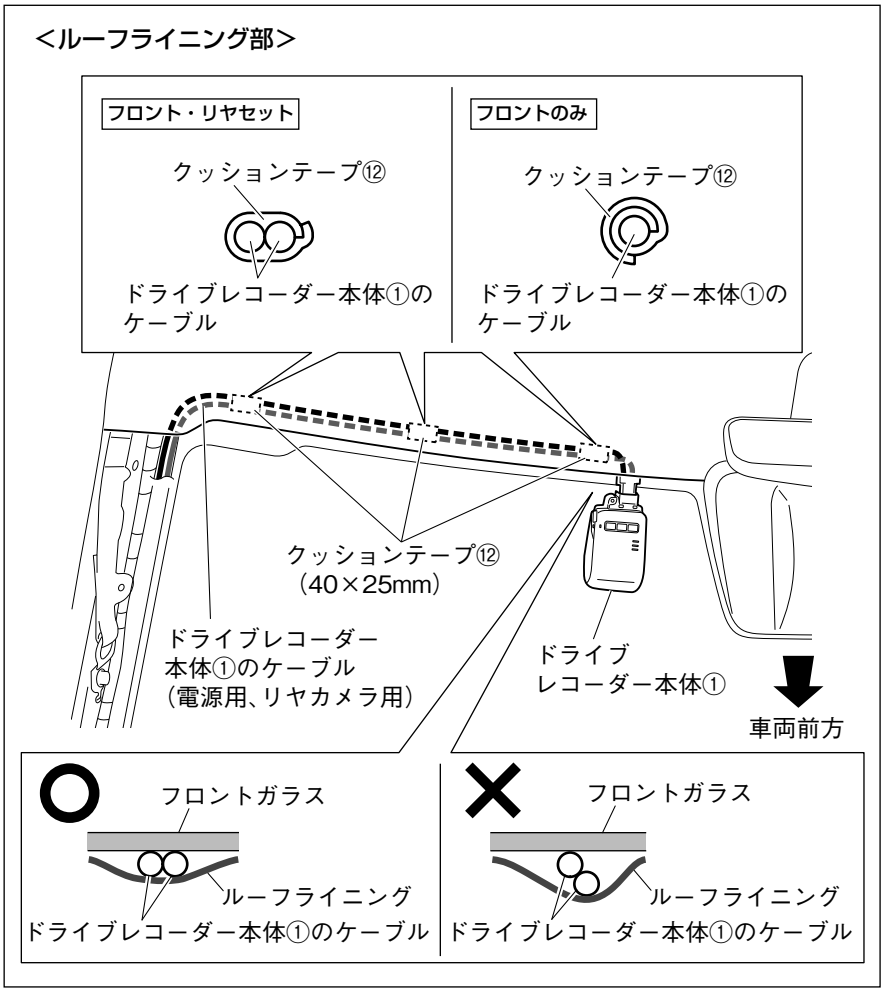
- 取付面の汚れ等をクリーナー⑭できれいに拭き取ってください。汚れていると接着力が低下します。
- 接着面に触れたり、ブラケットを取り付け直したりしないでください。
- 気温が低い時（15℃以下）は、取付面をドライヤーなどで温めてから取付作業を行ってください。

アドバイス

リヤカメラ⑥、ブラケット（リヤ）⑦の取り付けの詳細は、共通編の「リヤカメラの角度調整および貼り付け」を参照してください。

■ 配線作業

ドライブレコーダー本体のケーブル（電源用、リヤカメラ用）配線



アドバイス

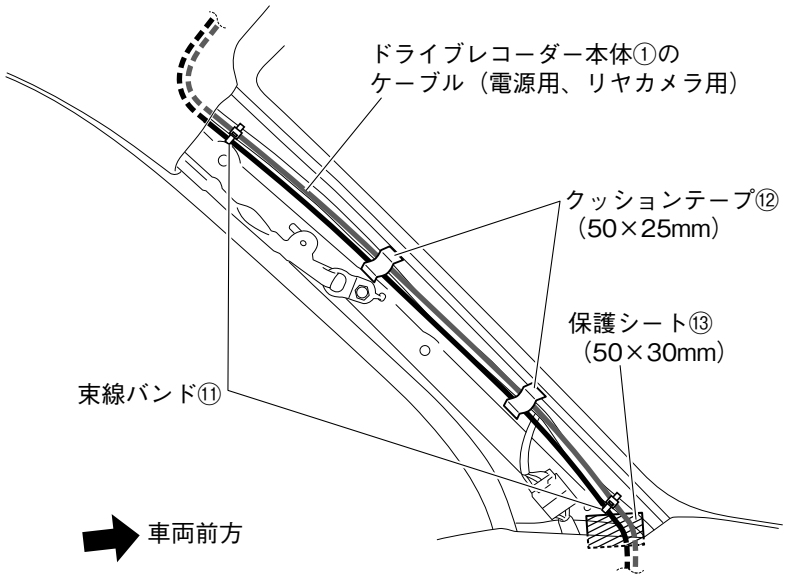
「フロントのみ」の場合は、ドライブレコーダー本体①のケーブル（リヤカメラ用）の配線作業はありません。

1. ドライブレコーダー本体①のケーブル（電源用、リヤカメラ用）にクッションテープ⑫を巻き付けます。
2. ドライブレコーダー本体①のケーブル（電源用、リヤカメラ用）をルーフライニング内に入れ込みながら、フロントピラー部へ配線します。

注 記

ルーフライニング引込部のドライブレコーダー本体①のケーブル（電源用、リヤカメラ用）は、フロントガラスと並行になるようにしてください。

<左側フロントピラー部>



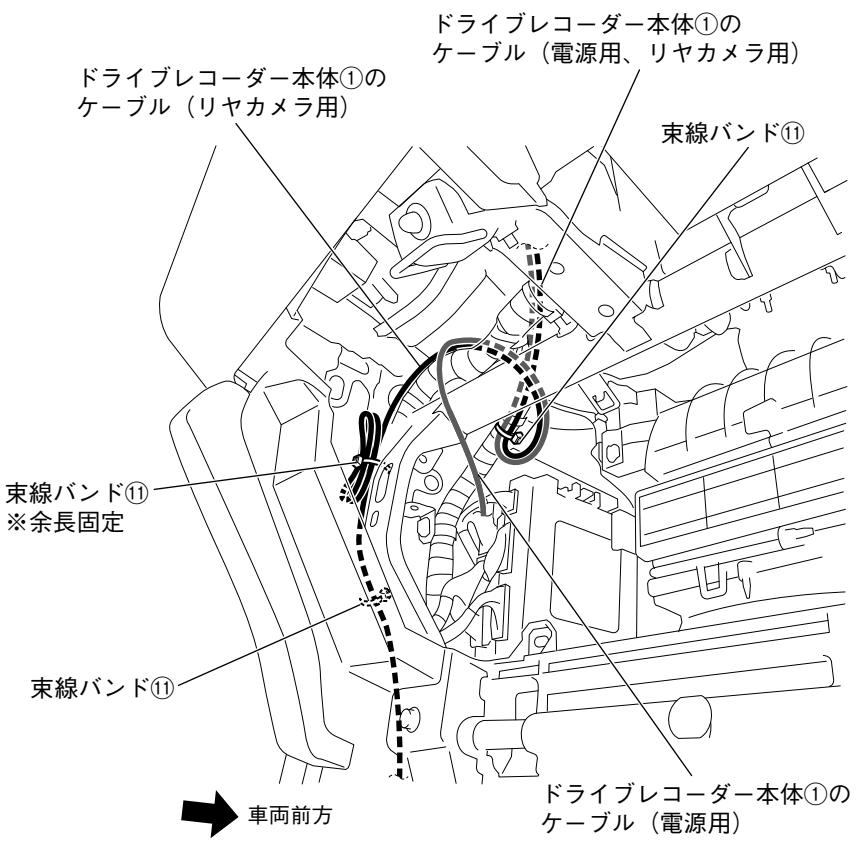
3. ドライブレコーダー本体①のケーブル（電源用、リヤカメラ用）をフロントピラーに束線バンド⑪とクッションテープ⑫で固定しながら配線します。

注 記

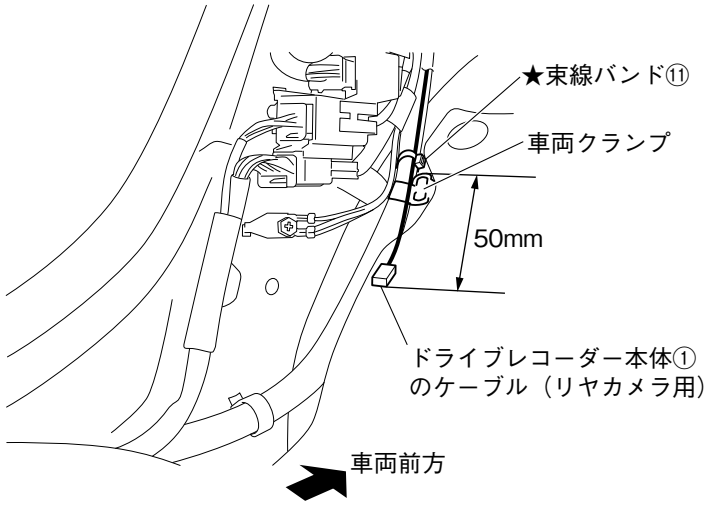
- **図示位置の板金エッジ部に保護シート⑬を貼り付けてください。**
- **保護シート⑬貼付面の汚れ等をクリーナー⑭できれいに拭き取ってください。汚れていると接着力が低下します。**
  また寒い時は温めてから作業を行ってください。
- **ドライブレコーダー本体①のケーブル（電源用、リヤカメラ用）およびクッションテープ⑫は、カーテンエアバッグの部品と接触しないように配策・固定してください。**
- **クッションテープ⑫でフロントピラートリムの固定クリップ穴をふさがないでください。また、フロントピラートリムの当てリブ部と干渉しないようにしてください。**

4. ドライブレコーダー本体①のケーブル（電源用、リヤカメラ用）をフロントピラーとダッシュボードのすき間からグローブボックス取付部に配線します。

＜グローブボックス取付部左側＞



＜助手席足元左側＞



5. ドライブレコーダー本体①のケーブル（電源用、リヤカメラ用）を束線バンド⑪で車両ハーネスに固定します。
6. ドライブレコーダー本体①のケーブル（リヤカメラ用）のみを助手席足元左側まで配線し、コネクター部を図のように束線バンド⑪で車両ハーネスに固定します。

注記

★部の束線バンド⑪は、ドライブレコーダー本体①のケーブル（リヤカメラ用）のコネクター先端から車両クランプまでを図示寸法に合わせて固定してください。

アドバイス

ドライブレコーダー本体①のケーブル（電源用）は一緒に固定しないでください。

7. ドライブレコーダー本体①のケーブル（リヤカメラ用）のみを束線バンド⑪で車両ハーネスに固定します。

アドバイス

ドライブレコーダー本体①のケーブル（電源用）は一緒に固定しないでください。

8. ドライブレコーダー本体①のケーブル（リヤカメラ用）の余長を束ねて束線バンド⑪で車両ハーネスに固定します。

注記

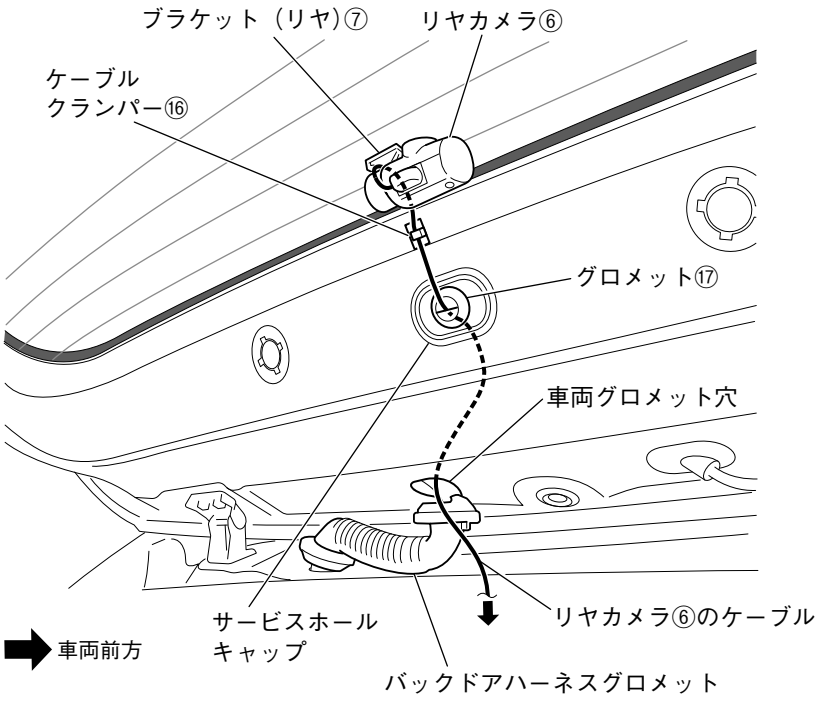
ケーブルの余長はグローブボックスと干渉しないように固定してください。

アドバイス

ドライブレコーダー本体①のケーブル（電源用）はドライブレコーダー本体①のケーブル（リヤカメラ用）と一緒に束ねたり、固定をしないでください。

リヤカメラのケーブル配線　フロント・リヤセット

<バックドア上部>



1. バックドアハーネスグロメットのかん合部をバックドア側および室内側から外します。
2. リヤカメラ⑥のケーブルをサービスホールからバックドア側の車両グロメット穴まで通します。

注記

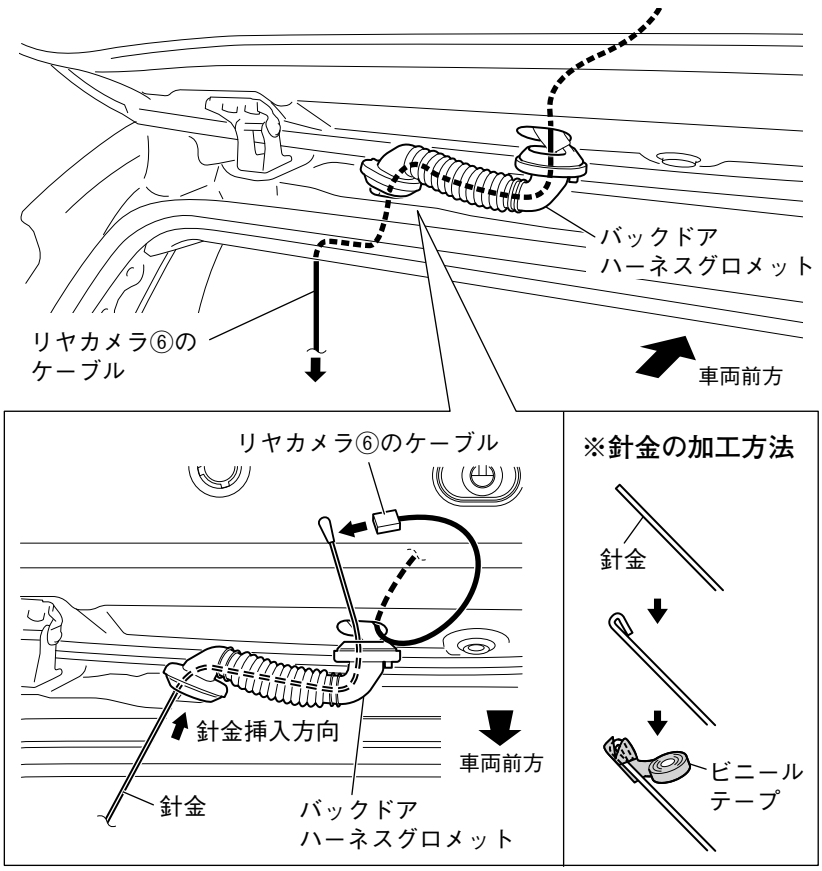
リヤカメラ⑥のケーブルがブラケット（リヤ）⑦に沿って引き回されていることを確認してください。（共通編「リヤカメラの角度調整および貼り付け」参照）

3. サービスホールキャップをサービスホールに取り付けます。
4. ケーブルクランパー⑯でリヤカメラ⑥のケーブルを固定します。

注記

- **ケーブルクランパー⑯貼付面の汚れ等をクリーナー⑭できれいに拭き取ってください。汚れていると接着力が低下します。**
- **気温が低いとき（15℃以下）は、ケーブルクランパー⑯の貼付面をドライヤーなどで温めてから貼り付けてください。**

<バックドアハーネスグロメット部>



5. 針金を使用してバックドアハーネスグロメット内にリヤカメラ⑥のケーブルを通し、室内側まで配線します。

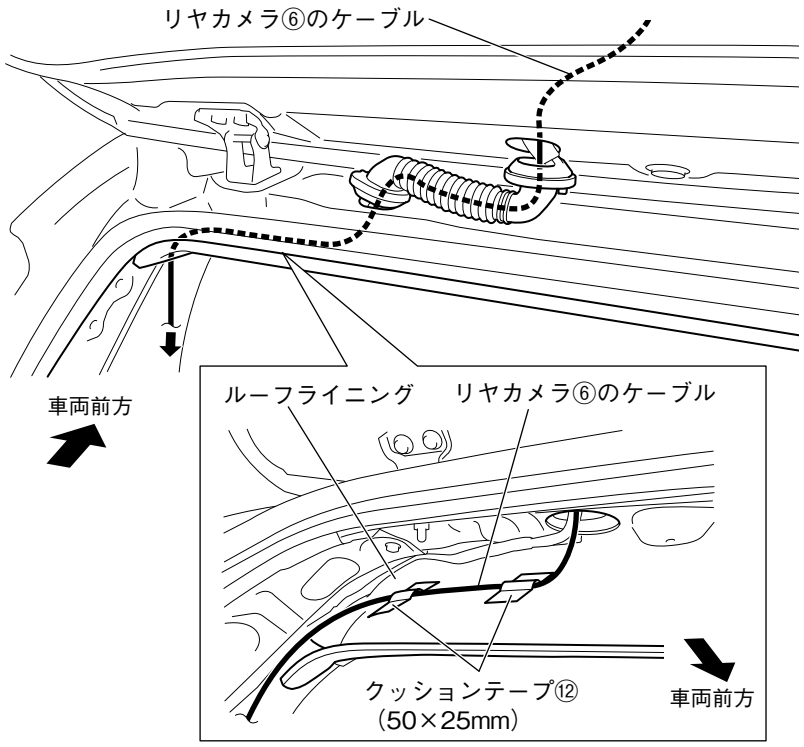
注記

- バックドアハーネスおよびリヤカメラ⑥のケーブル破損防止のため、無理に引っ張ったりしないでください。
- リヤカメラ⑥のケーブルをバックドアハーネスグロメット内に通す際は、中性洗剤等を塗布してコネクター部がバックドアハーネスグロメット内で引っかからないようにしてください。その際、コネクターや端子に中性洗剤等がかからないようにしっかりテーピングしてください。

アドバイス

- 針金の先端を折り曲げ、ビニールテープでテーピングをしてください。
- 折り曲げた側の針金をバックドアハーネスグロメットの室内側からバックドア側に通してください。
- リヤカメラ⑥のケーブルのコネクターを針金にしっかりテーピングしてください。

<バックドアハーネスグロメット部>

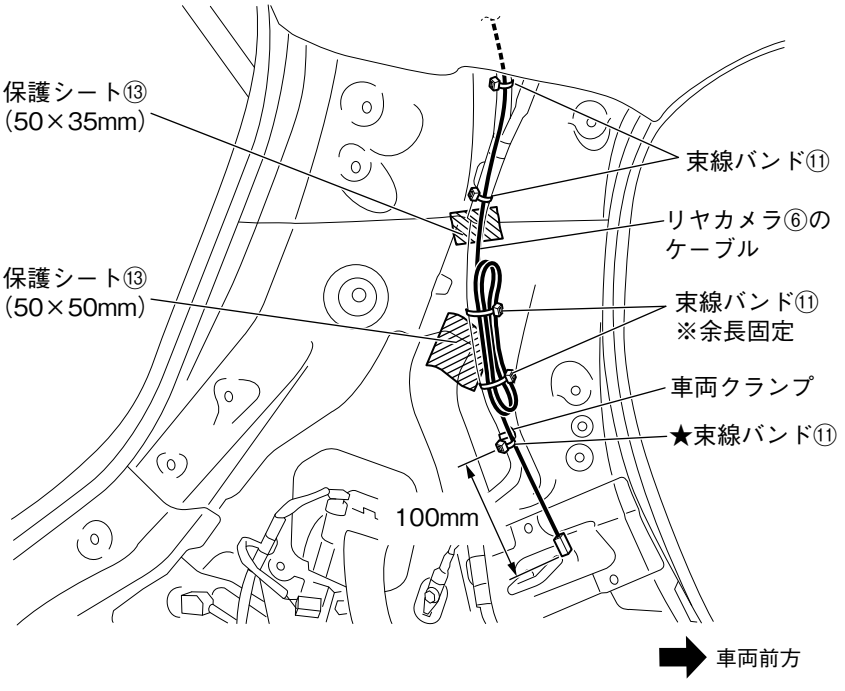


6. リヤカメラ⑥のケーブルをルーフライニングとルーフパネルの間に配線し、クッションテープ⑫でルーフライニングに固定します。

注記

リヤカメラ⑥のケーブルやクッションテープ⑫がルーフライニングのクリップ穴等をふさがないようにしてください。

<左クォーターピラー>



7. 左クォーターピラーのリヤカメラ⑥のケーブルを束線バンド⑪で固定します。

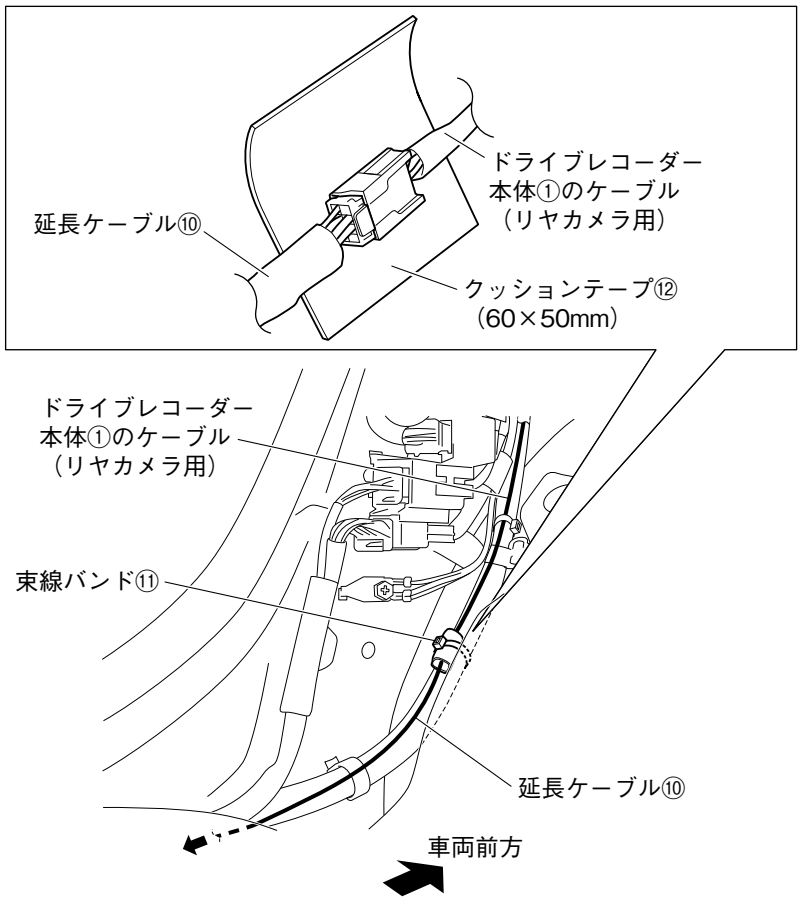
注記

- 図示位置の板金エッジ部に保護シート⑬を貼り付けてください。
- 保護シート⑬貼付面の汚れ等をクリーナー⑭できれいに拭き取ってください。汚れていると接着力が低下します。
  また寒い時は温めてから作業を行ってください。
- ★部の束線バンド⑪は、リヤカメラ⑥のケーブルのコネクター先端から車両クランプまでを図示寸法に合わせて固定してください。

8. リヤカメラ⑥のケーブルの余長を束ねて束線バンド⑪で車両ハーネスに固定します。

電源ケーブルと延長ケーブルの配線

＜助手席足元左側＞



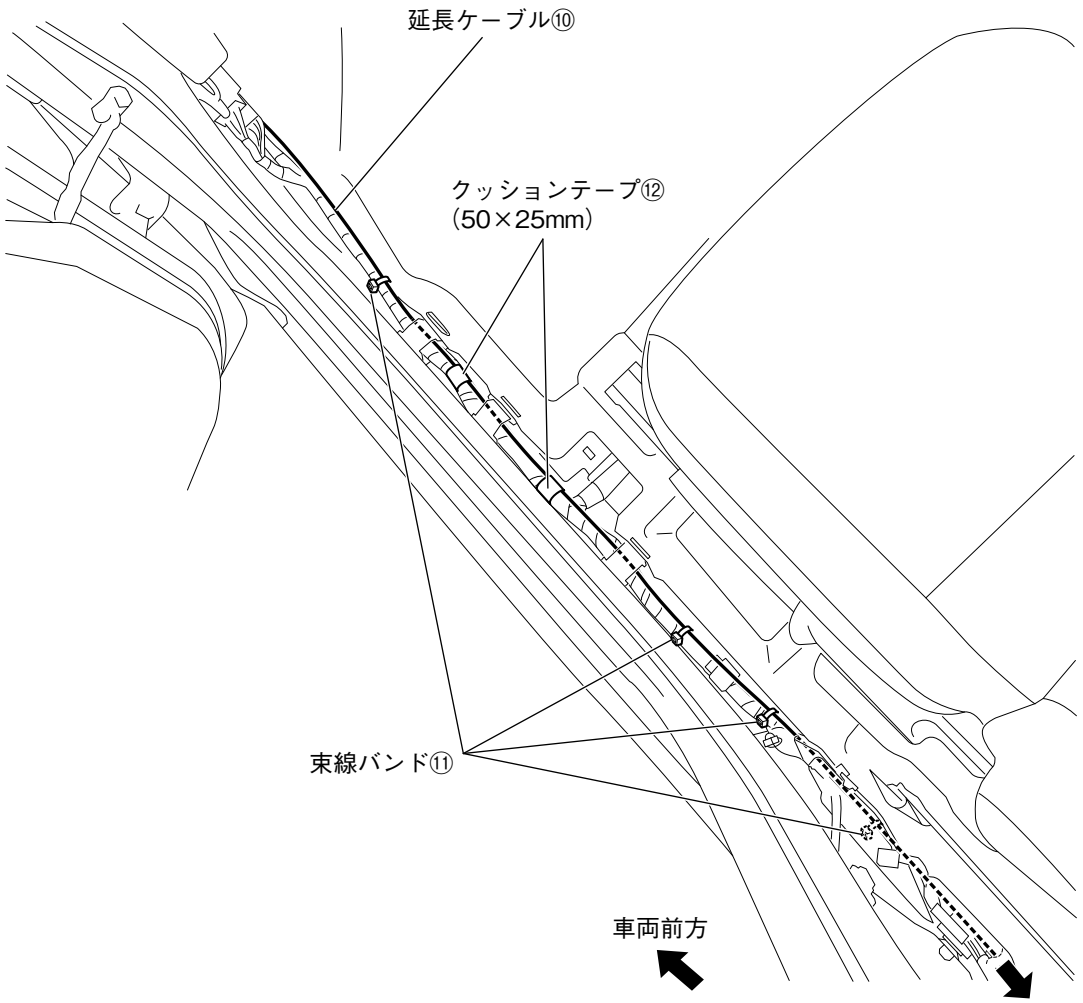
アドバイス

「フロントのみ」の場合は、ドライブレコーダー本体①のケーブル（リヤカメラ用）と延長ケーブル⑩の配線作業はありません。

1. 延長ケーブル⑩をドライブレコーダー本体①のケーブル（リヤカメラ用）に接続します。
2. 接続したコネクター部にクッションテープ⑫を巻き付けます。
3. 助手席足元左側の延長ケーブル⑩を束線バンド⑪で車両ハーネスに固定します。

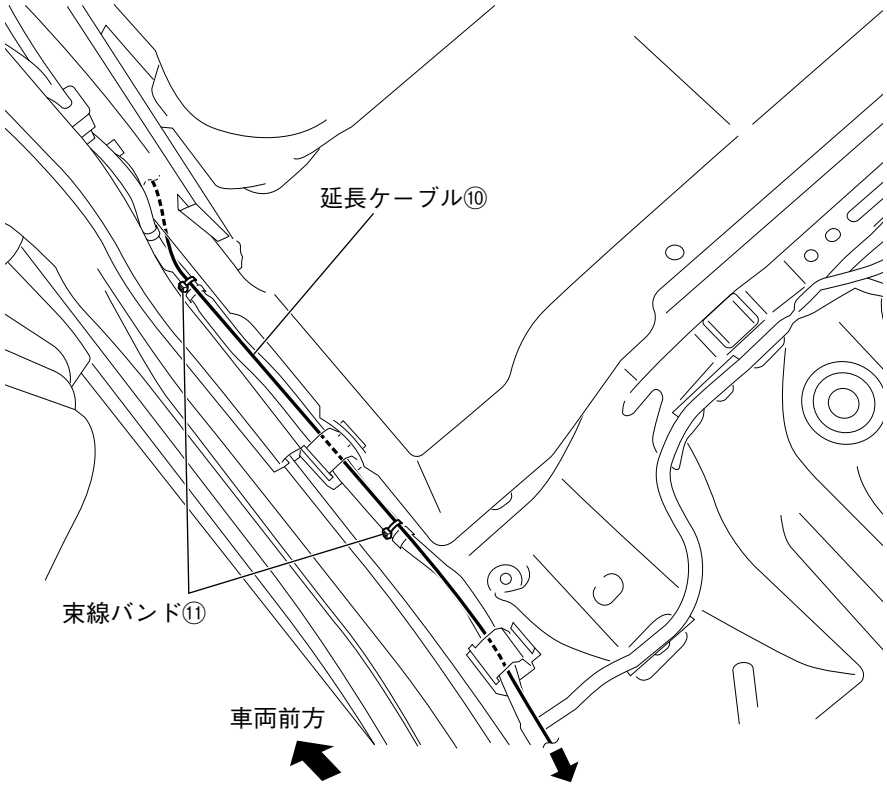
4. 延長ケーブル⑩を左クォーターピラーまで配線します。
5. 延長ケーブル⑩を束線バンド⑪とクッションテープ⑫で車両ハーネスに固定します。

<左フロントドア開口部>



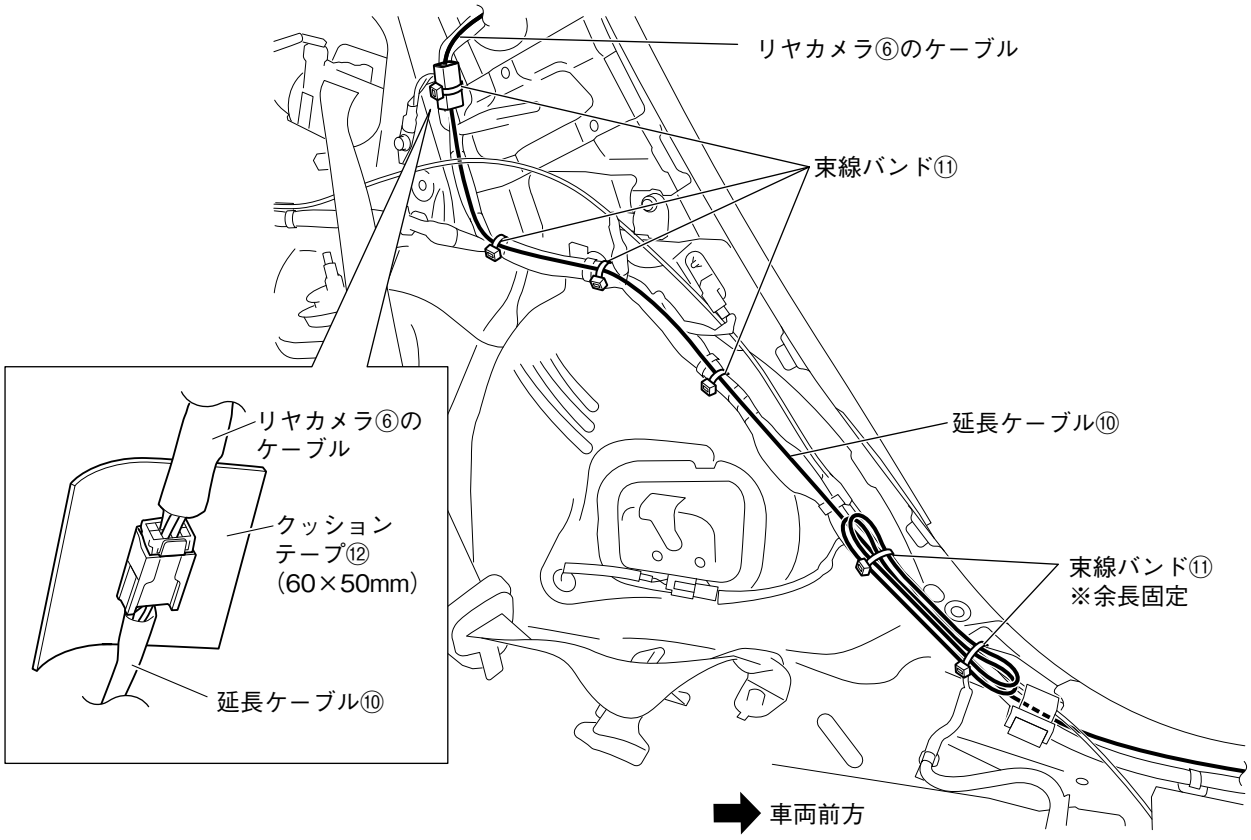
6. 延長ケーブル⑩を束線バンド⑪で車両ハーネスに固定します。

<左リヤドア開口部>

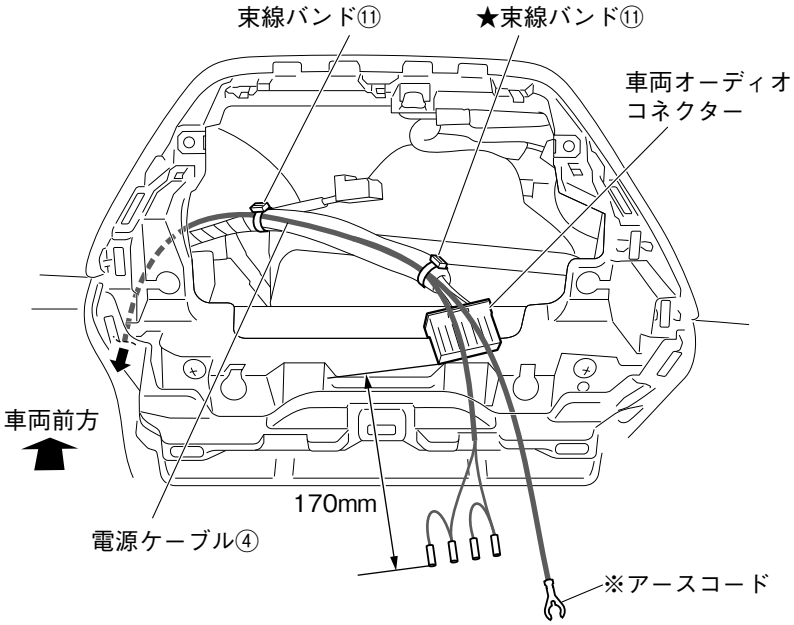


7. 延長ケーブル⑩をリヤカメラ⑥のケーブルに接続します。
8. 接続したコネクター部にクッションテープ⑫を巻き付け、束線バンド⑪で車両ハーネスに固定します。
9. 延長ケーブル⑩を束線バンド⑪で固定し、余長は束ねて束線バンド⑪で車両ハーネスに固定します。

<左クォーターピラー>



<オーディオ開口部>



10.電源ケーブル④をオーディオ開口部からグローブボックス取付部まで配線します。

アドバイス

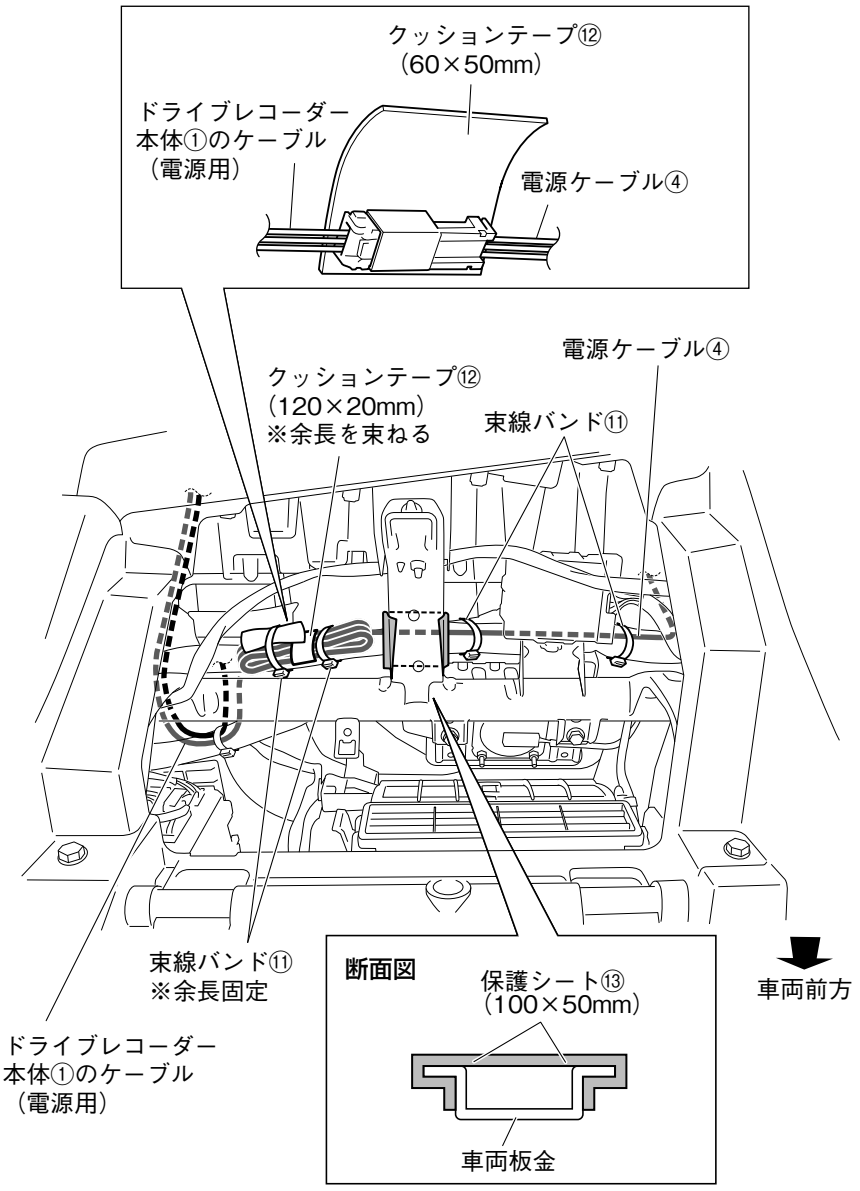
※アースコードをアースボルトに接続する場合（車両ブラケット部で共締めできない場合）は、アースコードを助手席足元左側へ配線してください。オーディオ開口部には配線しないでください。

11.オーディオ開口部の電源ケーブル④を束線バンド⑪で車両ハーネスに固定します。

注 記

- **★部の束線バンド⑪は、電源ケーブル④のギボシ端子先端から車両オーディオコネクター先端までを図示寸法に合わせて固定してください。**
- **アースコードをアースボルトに接続する場合は、アースコードを車両ハーネスに沿って助手席足元左側まで配線し、束線バンド⑪またはクッションテープ⑫で適宜固定してください。**

<グローブボックス取付部>



12.電源ケーブル④を束線バンド⑪で車両ハーネスに固定します。

注 記

・図示位置の板金エッジ部に保護シート⑬を貼り付けてください。
・保護シート⑬貼付面の汚れ等をクリーナー⑭できれいに拭き取ってください。汚れていると接着力が低下します。
また寒い時は温めてから作業を行ってください。

13.ドライブレコーダー本体①のケーブル（電源用）と電源ケーブル④を接続します。
14.接続したコネクター部にクッションテープ⑫を巻き付けます。
15.ドライブレコーダー本体①のケーブル（電源用）と電源ケーブル④の余長をクッションテープ⑫で束ねた後、束線バンド⑪で車両ハーネスに固定します。

注 記

ケーブルの余長はグローブボックスと干渉しないように固定してください。

アドバイス

ドライブレコーダー本体①のケーブル（電源用）と電源ケーブル④の余長は一緒に束ねて固定してください。

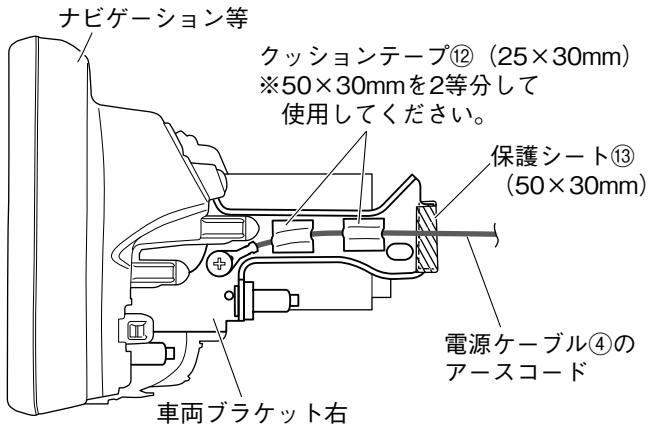
電源ケーブルアースコードの接続

アドバイス

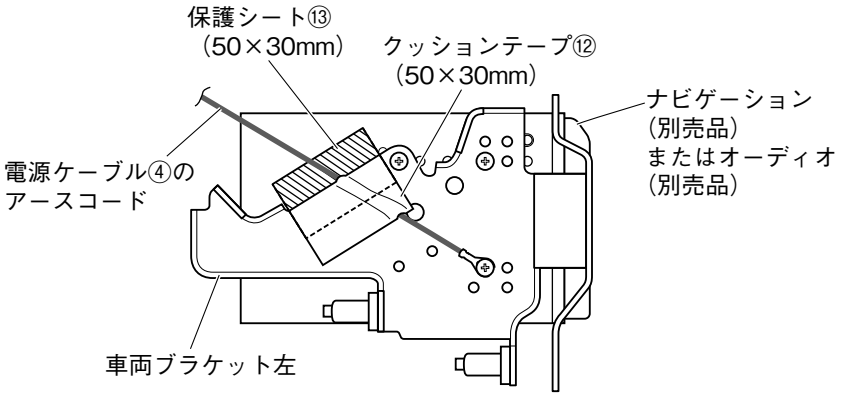
アースコードをオーディオ開口部車両ブラケットで共締めできるか否かによりアースコードの接続先が異なります。取り付ける車両の状態に応じて接続してください。オーディオ開口部車両ブラケットで共締めできない場合はアースボルトへの接続になります。

●車両ブラケット部で共締めできる場合

＜メーカーオプションの場合＞



＜ディーラーオプションの場合＞



1. 電源ケーブル④のアースコードを車両ブラケットの左図位置に取り付けます。

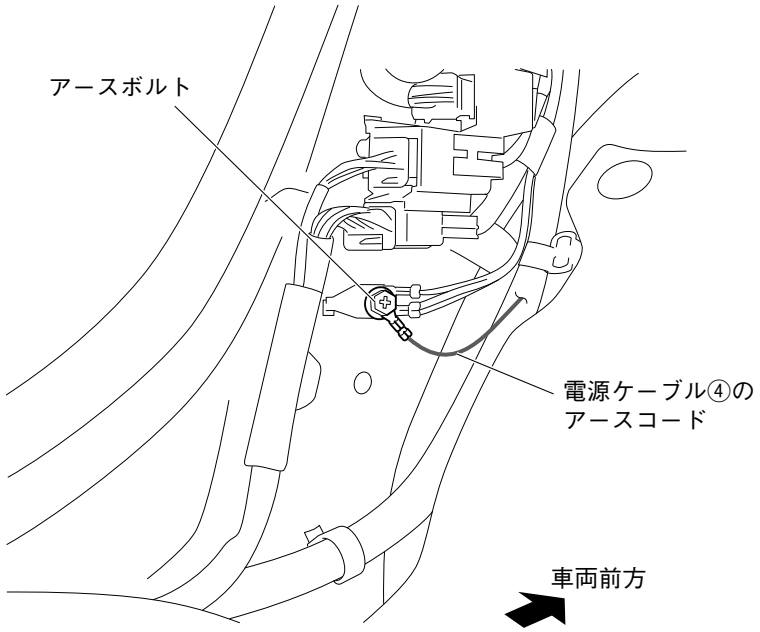
注記

- 板金エッジ部に保護シート⑬を左図のように貼り付けてください。
- 保護シート⑬貼付面の汚れ等をクリーナー⑭できれいに拭き取ってください。汚れていると接着力が低下します。
  また寒い時は温めてから作業を行ってください。
- アースが確実に取れていることをテスターで確認してください。

2. 電源ケーブル④のアースコードをクッションテープ⑫で左図のように固定します。

●アースボルトに接続する場合

<助手席足元左側>



1. 電源ケーブル④のアースコードを図示位置のアースボルトに接続し、取付後の確認を行います。

注 記

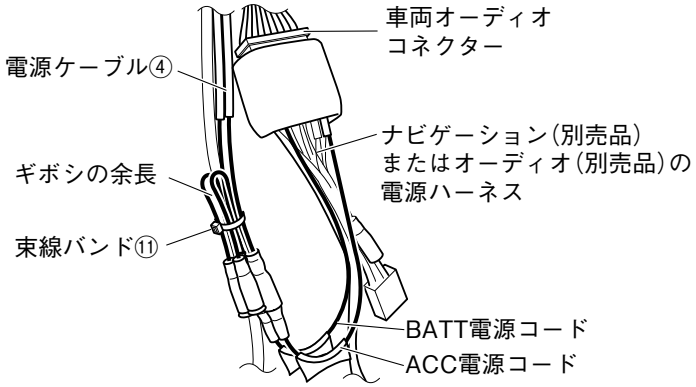
- **アース端子は他のアース端子とカシメ部が重ならないように取り付けて確認を行ってください。**
- **アースボルトは規定トルク値で締め付けてください。**

2. 必要に応じてアース端子をアースボルトから外し、車両ブラケット部に接続し直してください。

電源ケーブル ACC 電源、バッテリー電源の接続

アドバイス
電源ハーネスの形状により電源の取り出し要領が異なります。取り付ける車両に応じて接続をしてください。

●電源ハーネスにギボシ端子がある場合

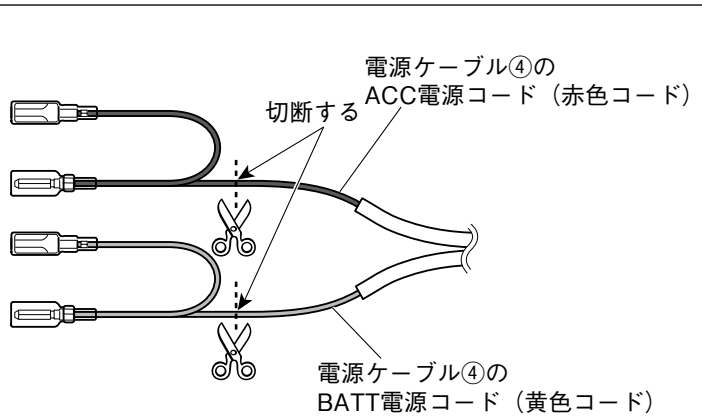


電源ケーブル④のギボシ端子をナビゲーション（別売品）またはオーディオ（別売品）の電源ハーネスに接続します。
ギボシ部の余長は、束線バンド⑪で束ねます。

⚠警告
接続しないギボシ端子は、共通編の「結線図　■用品ナビ・オーディオと共着し、電源ハーネスに ACC/ バッテリー電源のギボシ端子がある場合」を参照して、必ず絶縁テープを巻き付けてください。

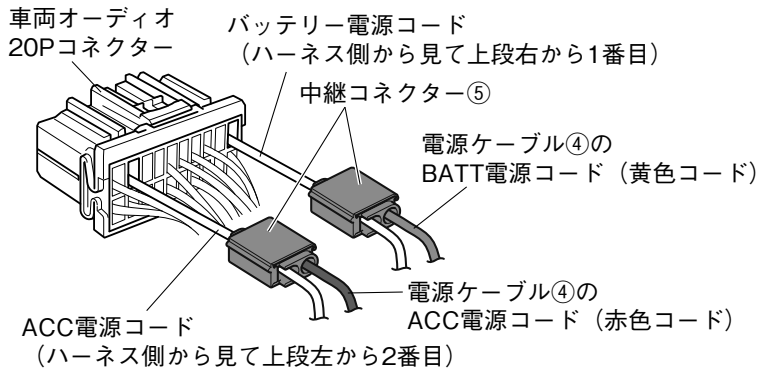
アドバイス
電源ケーブル④の接続は、共通編の「結線図」を参照して接続してください。

●電源ハーネスにギボシ端子がない場合

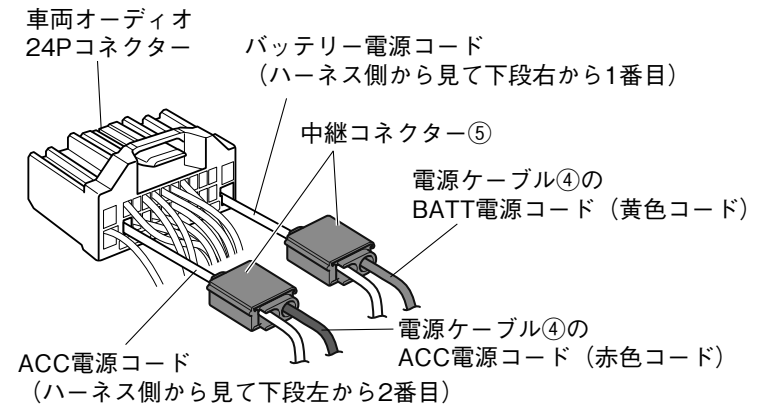


1. 電源ケーブル④の BATT 電源コード（黄色コード）および ACC 電源コード（赤色コード）先端のギボシ端子部を切断します。

＜車両オーディオコネクターが水色 20P の場合＞



＜車両オーディオコネクターが灰色 24P の場合＞



2. 車両オーディオコネクター（水色または灰色）のバッテリー電源コードに電源ケーブル④の BATT 電源コード（黄色コード）を中継コネクター⑤で接続します。
3. 車両オーディオコネクター（水色または灰色）の ACC 電源コードに電源ケーブル④の ACC 電源コード（赤色コード）を中継コネクター⑤で接続します。

アドバイス
中継コネクター⑤の接続方法は、共通編の「中継コネクターの使用方法」を参照してください。

■ 車両部品の復元

取り外しと逆の手順で取り付けます。

注 記
車両部品復元時に一時的に取り外した部品は、必ずサービスマニュアルの手順に沿って、用品取り付け前の状態に戻してください。（コネクター類の接続・締め付けトルク等）

⚠警告
取り付け作業完了後、車両および用品が正しく機能しているか動作確認してください。
車の電装品（ブレーキ、ライト、ホーン、ウインカー、ハザードなど）が正常に動作しない状態で使用すると、火災や交通事故の原因になります。

注 記
オートライト機能装備車の場合は、オートライト未作動状態での点検を行ってください。